

水道関連施設を一元管理 遠隔地確認や現場操作も

浜田市が「やくも水神」導入



小松電機産業が美川浄水場で開催した視察会＝浜田市内村町

「やくも水神」はNTTドコモのFOMA通信網を利用したクラウド型監視システム。2010年6月に発売したGシリーズはタブレット型端末やスマートフォン（多機能携帯電話）で操作でき、「グーグルマップ」に

小松電機産業（松江市乃木福富町、小松昭夫社長）の上水道遠隔管理システム「やくも水神Gシリーズ」が浜田市内村町の美川浄水場に導入された。同市支所単位で運用していた上水道、工業用水など各施設のシステムを一本化し、低コストで効率的な管理を可能にした。

よる同一地図上のエリア管理を可能にした。採用実績は2000年以来、全国293自治体、6千施設以上に上る。美川浄水場のシステム導入は、16年度までに簡易水道と上水道の統合を求める国の指針を受けて実施した。簡易水道、工業用水、上水道、下水道の計202施設にクラウドコンピューティングを導入する。総事業費は1億6900万円。

単年度での施工規模としては同社最大で、阿部哲也営業本部長は「全国的にも前例がない規模」という。システムは従来の専用回線を一部残しながら、各施設と同社のデータセンターを無線通信のネットワークで接続。停電などの緊急時に、職員が遠隔地からの確認や現場操作ができる。

浜田市水道部の白瀬亘係長は「広域エリアを少人数で管理でき、効率化とコスト削減につながる」と導入効果を話した。5月中旬に美川浄水場で開

催したシステム視察会には全国から約50人が参加。同社の阿部本部長は「簡易水道と上水道の統合に向けて、システムへの関心は高く、需要拡大を取り込みたい」としている。